

## 1. 地区の概況

**【位置】**  
市の西端に位置し、成田街道（国道296号）を境に船橋市と接する。北を京成本線、南を京葉道路に挟まれた細長い地区である。

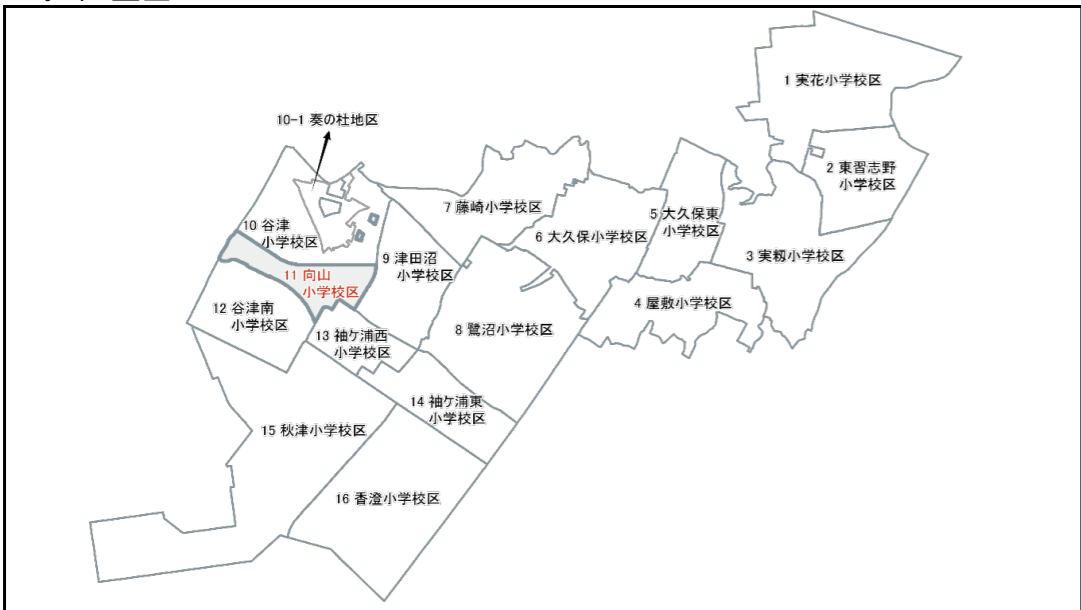
**【地形・地勢】**  
地区を横断する千葉街道（国道14号）を境に、北部は砂丘・砂州・谷底平野から成り、南部は海岸の埋立地である。京成本線谷津駅周辺は、埋立てが行われる以前は海水浴客で賑わう谷津海岸や谷津公園（旧谷津遊園）の最寄り駅として発展した。その後、1960年代の第一次埋立てにより造成された住宅地の住民が通勤・通学に利用する駅として更に乗降客数が増加した。谷津駅南側の谷津4丁目には、商業・業務・サービス施設及び高層住宅が立ち並ぶ一方、向山小学校が立地する地区東側の谷津2丁目は低層住宅と農地が入り組んでいる。

**【交通】**  
地区の北側境界部を京成本線が走り、南側境界部を京葉道路が通過する。谷津小学校区との境界位置に京成本線谷津駅が立地し、1日の平均乗降人員は8,968人である。一部、京成本線と並行しつつ、千葉街道（国道14号）が地区内を東西に横断する。

**【人口・建物等】**  
地区の人口は16地区中で最も少ない。老年人口の割合は27.2%で、市平均を上回っており、高齢化が進んでいる地区である。  
建物棟数は16地区中3番目に少ないが、昭和55年以前の建物の割合は、27.6%で市平均24.8%を上回っている。

**【地区内の施設等】**  
第一避難所および一時避難場所として、向山小学校が指定されている。補助避難所として、谷津保育所、私立谷津みのり保育園、向山幼稚園、谷津公民館が指定されている。また、福祉避難所として、特別養護老人ホームサンクレール谷津が指定されている。  
防災倉庫は向山小学校に設置されているが、非常用給水施設は地区内にはない。  
また、病院・診療所は6箇所あり、その内「谷津保健病院」は救急告示病院である。

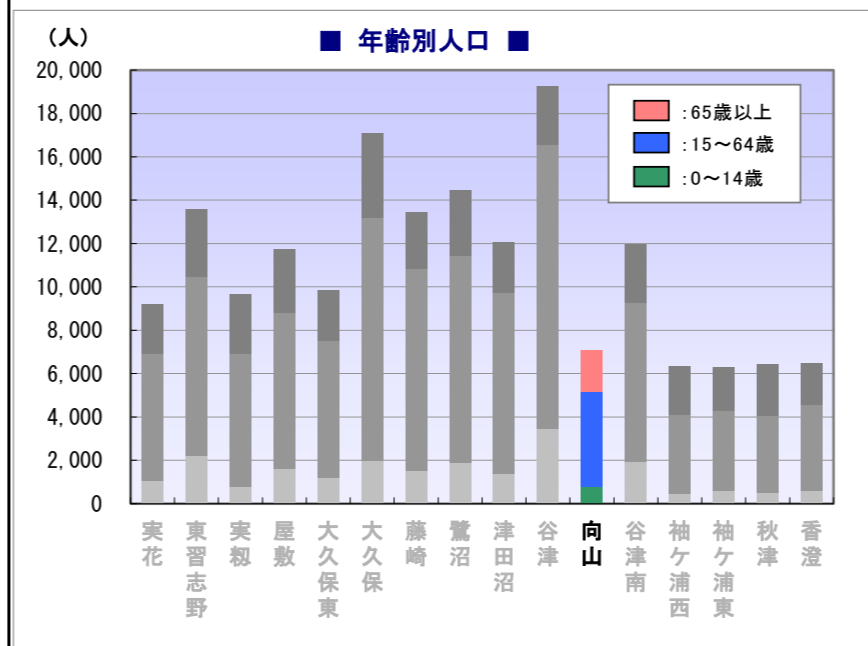
## 2. 位置図



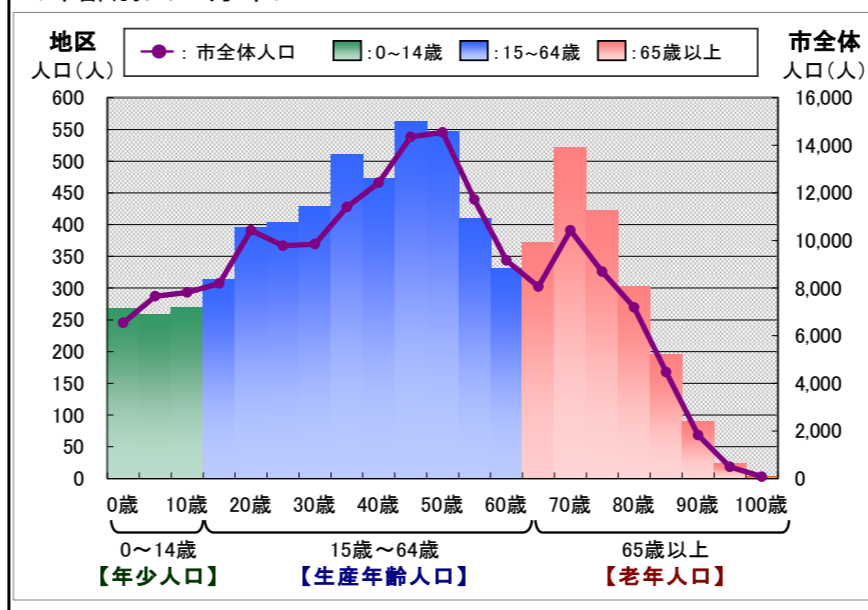
## 3. 基本指標

	地区内		市全域
人口	7,101 人	4.1%	175,065 人
(内訳)	-	-	-
0歳～14歳	794 人	3.6%	21,998 人
15歳～64歳	4,375 人	3.9%	111,846 人
65歳～	1,932 人	4.7%	41,221 人
老年人口割合	27.2 %		23.5 %
世帯数	3,581 世帯	4.3%	83,137 世帯
世帯当り人口	1.98 人	-	2.11 人
地区面積	0.53 km <sup>2</sup>	2.5%	20.96 km <sup>2</sup>
人口密度	13,423 人/km <sup>2</sup>	-	8,351 人/km <sup>2</sup>

### <年齢別人口（他地区との比較）>



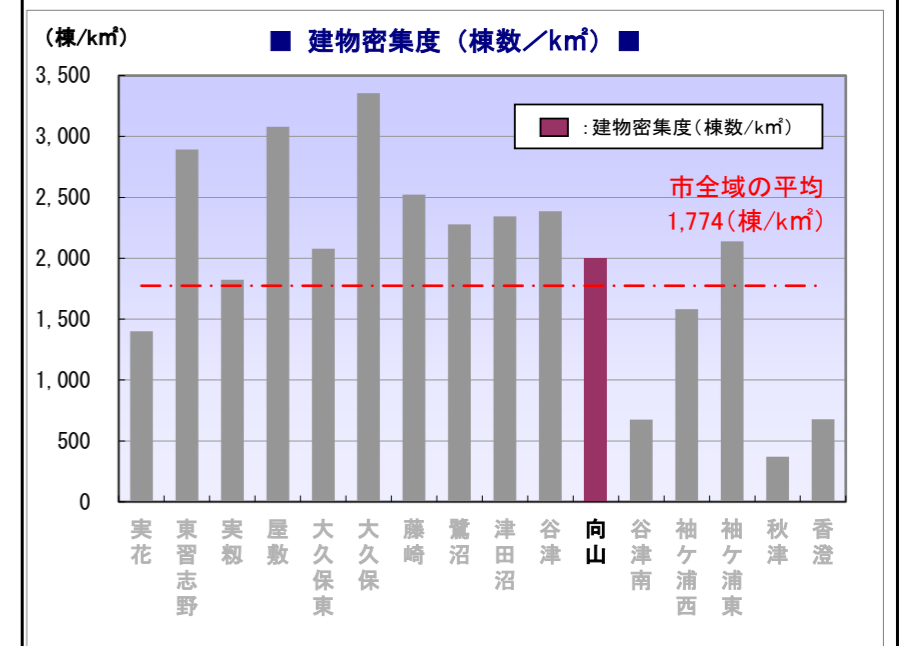
### <年齢別人口分布>



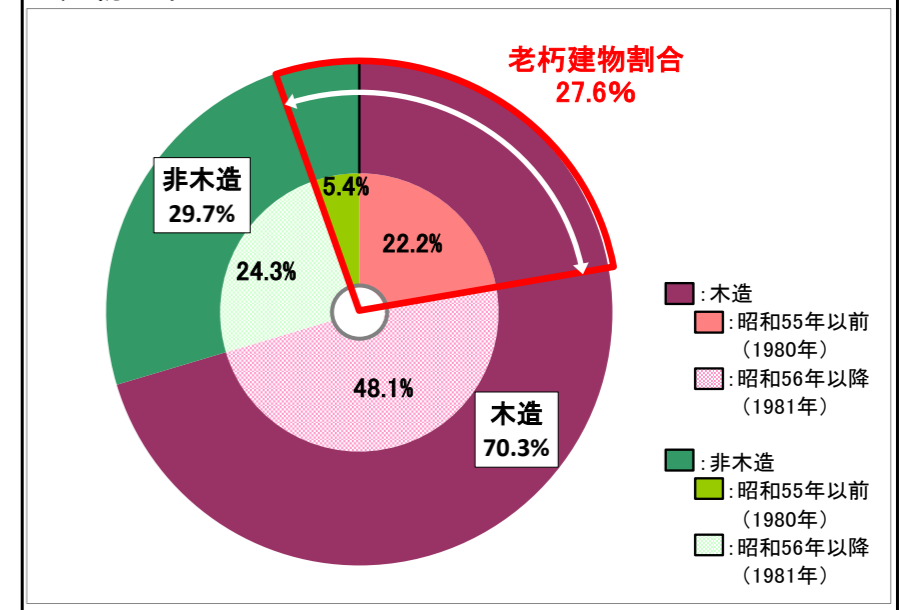
## 4. 建物指標

	構造	建築年	地区内	市全域
構造・ 建築年 別建物 棟数	木造	～昭和55年	235 棟	7,520 棟
		昭和56年～	508 棟	19,915 棟
		小計	743 棟	27,435 棟
	非木造	～昭和55年	57 棟	1,708 棟
		昭和56年～	256 棟	8,052 棟
		小計	313 棟	9,760 棟
合計			1,056 棟	37,195 棟
建物密集度			1,996 棟/km <sup>2</sup>	1,774 棟/km <sup>2</sup>
老朽建物割合			27.6 %	24.8 %

### <建物密集度（他地区との比較）>



### <建物比率>



5. 地区対策支部

設置場所	住所	設置予定場所
向山小学校	谷津2丁目16番32号	1階 職員室

6. 避難施設

種類	施設名称	屋外面積 (㎡)	屋外収容 人員(人)	屋内面積 (㎡)	屋内収容 人員(約人)
一時避難場所 (グラウンド等)	向山小学校	17,875㎡	17,875人		
第一避難所 (体育館等)	向山小学校			813㎡	490人
補助避難所	谷津保育所			2,201㎡	1,330人
	私立谷津みのり保育園			1,061㎡	640人
	向山幼稚園			1,080㎡	650人
	谷津公民館			1,023㎡	620人
福祉避難所	特別養護老人ホームサンクレール谷津				

※一時避難場所は敷地面積すべてを記載しています。

7. 高齢者福祉施設

施設名	施設名
特別養護老人ホームサンクレール谷津	
グループホーム「谷津居宅サービスセンター」	
ウェルケアテラス谷津	
リハビリホームボンセジュール谷津	
なごやかレジデンス京成谷津	
かがやきデイサービス京成谷津	

8. 防災倉庫・非常用給水施設・AED設置場所

種類	施設名	住所
防災倉庫	向山小学校	谷津2丁目16番32号
給水施設	なし	
AED設置場所	向山小学校	谷津2丁目16番32号
AED設置場所	谷津公民館	谷津4丁目7番10号
AED設置場所	谷津保育所	谷津2丁目20番2号
AED設置場所	向山幼稚園	谷津2丁目16番32号

9. 消防・警察・医療機関

種類	施設名
消防署・出張所	なし
【消防団】	第1分団詰所
警察・交番	谷津交番
病院・診療所	高橋クリニック
	津田沼ザ・タワークリニック
	東京湾岸リハビリテーション病院
	谷津駅前あじさい眼科
	谷津こどもファミリークリニック
	谷津保健病院

10. 自主防災組織

組織数	加入世帯数
9	1,289

11. その他防災施設

種類	地区内	習志野市全域
防災行政無線 (スピーカー)	1 箇所	49 箇所
ヘリポート 臨時離発着場	0 箇所	13 箇所
消防水利	82 箇所	2,191 箇所

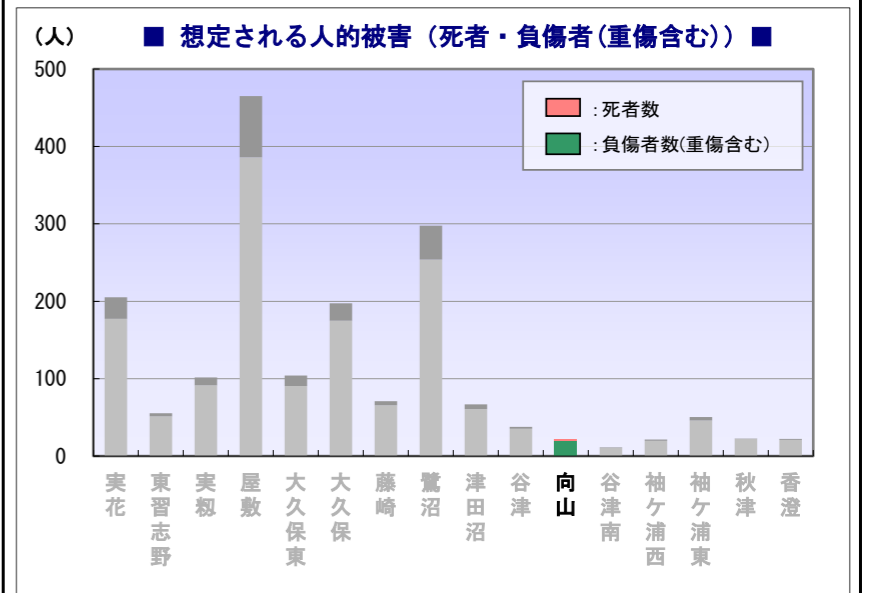
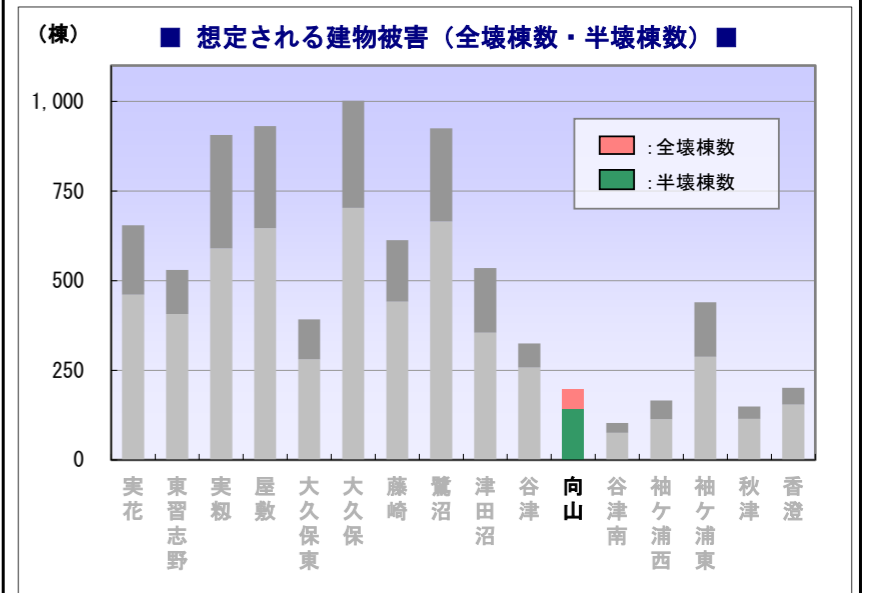
12. 土砂災害

種類	地区内	習志野市全域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	34 箇所
土砂災害警戒区域 (急傾斜地の崩壊)	0 箇所	36 箇所
急傾斜地崩壊 危険区域	1 箇所	5 箇所

13. 各種災害被害想定結果

被害想定項目	被害数値 (当該地区)	被害数値 (市全域)
建物被害【全壊】(棟)	54棟	2,371棟
建物被害【半壊】(棟)	142棟	5,697棟
建物全半壊率(%)	18.6%	21.7%
火災被害【焼失棟数】(棟)	0棟	2,756棟
死者(人)	2人	226人
負傷者【重傷含む】(人)	20人	1,527人
避難所生活者数(人)	752人	28,628人
河川はん濫影響建物棟数(棟)	332棟	5,532棟
内水はん濫影響建物棟数(棟)	304棟	6,975棟

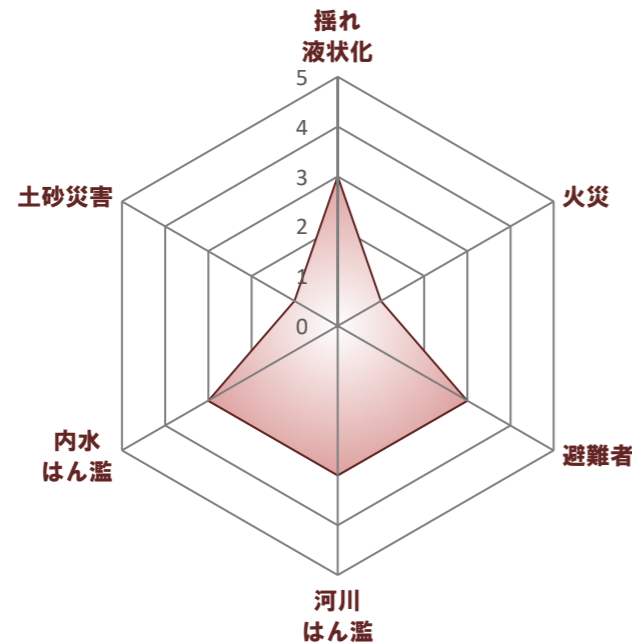
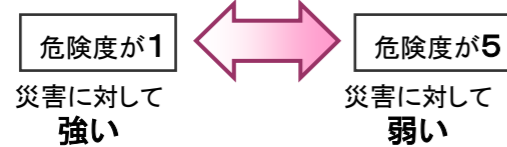
※地震被害の想定地震は、「千葉県北西部直下地震(M7.3)」です。



14. 各種災害の評価

評価項目		数値	危険度
地震災害	揺れ・液状化	揺れ・液状化による建物全半壊率(%) ※全半壊棟数/地区内の建物の総数	18.6%
	火災	火災・延焼による焼失率(%) ※焼失棟数/地区内の建物の総数	0.0%
	避難者	避難人口率(%) ※避難所生活者数/地区の総人口	10.6%
風水害	河川はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	332棟
	内水はん濫	浸水する可能性がある建物棟数(棟)	304棟
	土砂災害	土砂災害の影響を受ける可能性のある建物棟数(棟)	0棟

＜地区の災害に対する強さ＞



＜表・グラフの見方＞

被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目ごとに地区の災害特性を5段階の危険度で表したものです。「5」が最も災害の危険度が高いことを表しています。したがって、グラフの六角形の面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。

15. 地区の災害特性

問題点	内容
地震災害	<input type="checkbox"/> 揺れ・液状化による被害 千葉県北西部直下地震（M7.3）が発生した場合、地区のほとんどの区域の揺れが震度6強と予測される。また、液状化が発生する可能性が高い地区である。 想定される建物の全半壊率は18.6%であり、揺れ・液状化による建物被害が懸念される地区である。また、谷津2丁目は液状化危険性が高いと予測される。
	<input type="checkbox"/> 火災による被害 地震火災による焼失は予測されておらず、焼失率は0%である。予測される建物焼失率は低いものの、木造の低層住宅が多い谷津2丁目においては延焼による被害の警戒が必要である。
	<input type="checkbox"/> 避難環境 752人の避難所生活者の発生が予測される。団地等ではライフラインの機能停止により多数の避難者が発生する可能性がある。また船橋市と隣接しており、災害時には本地区の避難施設に市域を越えて避難してくることが予想され、避難所等の対応に支障をきたす可能性がある。
風水害 土砂災害	<input type="checkbox"/> 河川はん濫 河川はん濫によって332棟の建物に影響を及ぼすと予測される。特に国道14号以南の地域が浸水する想定であり、高いところでは3m以上の浸水が予測されるため、警戒が必要である。
	<input type="checkbox"/> 内水はん濫 谷津南小学校区との境界付近を中心に広い区域で浸水が想定されている。浸水する可能性がある建物棟数は304棟であり、想定浸水深は深いところで50cm～1mである。
	<input type="checkbox"/> 土砂災害 土砂災害特別警戒区域と土砂災害警戒区域の指定はないが、急傾斜地崩壊危険区域が1箇所指定されているため、周辺の住家は大雨・長雨時のがけ崩れに対して警戒が必要である。
避難環境	<input type="checkbox"/> 一時避難場所 一時避難場所として、向山小学校が指定されている。 <input type="checkbox"/> 第一避難所 第一避難所として、向山小学校が指定されている。 <input type="checkbox"/> 補助避難所 補助避難所として、谷津保育所、私立谷津みのり保育園、向山幼稚園、谷津公民館が指定されている。 <input type="checkbox"/> 福祉避難所 福祉避難所として、特別養護老人ホームサンクレール谷津が指定されている。
防災施設関係	<input type="checkbox"/> 防災倉庫 地区内には防災倉庫が向山小学校に設置されている。 <input type="checkbox"/> 非常用給水施設 地区内には非常用給水施設は設置されていない。
その他	地区の住宅密集地では狭隘な道路が多く、建物の倒壊等によって道が塞がれ、避難に支障をきたすおそれがある。









16. 防災対策の方向性

防災対策の方向性	
既存建築物の耐震性の確保	<b>■家屋の安全対策実施の促進</b> 昭和55年以前の建築物の耐震診断・耐震補強等を促進する施策を積極的に実施する。特に、不特定多数の人が利用する施設、学校、行政関連施設等の応急対策上重要な施設、要配慮者利用施設、病院施設等について、耐震性の確保に配慮する。 また、耐震診断と耐震改修工事等に関する補助金制度や、簡易耐震診断、家具の固定等の安全対策について、住民に周知・啓発する。
液状化対策の推進	<b>■ライフライン施設の強化</b> 地盤の改良や施設の耐震化・液状化対策により、地震・液状化に強いライフラインづくりを推進する。 <b>■応急対応体制の整備</b> ライフライン被害に対し、迅速に応急復旧に取りかかれるよう体制を整備する。市民生活を保持できるよう、トイレや飲料水等の応急対策について強化・推進する。 <b>■住民への知識普及・啓発</b> 液状化に関する正しい情報を呼びかけ、住民の防災意識を高揚する。
火災・延焼防止対策の推進	<b>■初期消火についての周知徹底</b> 家庭での初期消火の徹底を図るため、消火器具の設置を促進する。また、住民や地域に対して初期消火に関する知識、技術の普及を図るため、防災訓練を積極的に実施する。 <b>■危険物施設の安全確保</b> 消防法に定められた危険物取扱施設（貯蔵所・取扱所）の耐震性を確保する。 <b>■防災空間の整備</b> 延焼拡大を未然に防ぐため、建築物の不燃化を図る。また、火災の延焼防止や一時的な避難場所として重要な役割を担う緑地・都市公園を計画的に整備する。
避難拠点の整備	<b>■避難所・避難場所の確保</b> 災害時における要配慮者や女性の避難生活に配慮し、避難所等への計画的な備蓄や必要な物品の確保など、避難所の生活環境対策を推進する。
避難体制の整備	<b>■情報伝達・情報発信手段の確立</b> 防災行政無線から離れている区域に対し、多様な情報ツール・手段を活用して迅速な避難に資する情報を、住民に発信できる環境整備の改善に引き続き努める。 <b>■防災・減災意識の高揚</b> 被災者を抑制するために住宅の耐震化が重要であることを住民に教育・啓発し、防災・減災意識の高揚を図る。 また、ライフラインの途絶等に備え、家庭での水・食料や簡易トイレ等の備蓄を促進する。
河川はん濫・内水はん濫対策の推進	<b>■住民への知識普及・啓発</b> 河川はん濫・内水はん濫の危険性を事前に把握できるよう、ハザードマップ等を活用した知識の普及・啓発を図る。 <b>■気象情報等の発信体制の強化</b> 大雨等の気象情報、避難情報や警戒レベル等を、状況に応じて有効な伝達方法で、迅速かつ的確に発信できるよう体制を検討する。
土砂災害に対する警戒・避難体制の整備	<b>■住民への知識普及・啓発</b> 土砂災害が発生する危険性がある地域住民に対し、土砂災害の危険性を認識し、早めの自主避難が行えるよう知識の普及・啓発を図る。 <b>■土砂災害に対する警戒・早期避難体制の整備</b> 降雨時の気象情報等を把握し、早期の警戒活動や避難情報を判断する体制を整備する。
その他	<b>■自主防災組織活動の促進</b> 防災活動を行うに当たり、住民が地域ごとに団結し、組織的に行動することによってその効果が最大限に発揮できることから、自主防災組織活動を促進する。




# 災害発生要因図 【11向山小学校区】

## 凡例




### 防災関連施設

-  一時避難場所
-  第一避難所
-  補助避難所
-  福祉避難所
-  津波避難ビル
-  帰宅困難者向け一時滞在施設
-  高齢者福祉施設
-  公園


### 緊急輸送道路等

-  緊急輸送道路1次路線
-  緊急輸送道路2次路線
-  習志野市災害時重要路線


### 土砂災害(急傾斜地)

-  土砂災害特別警戒区域
-  土砂災害警戒区域
-  急傾斜地崩壊危険区域





### 水路

-  水路(暗渠・開渠)


### 内水浸水想定区域

-  10cm以上3m未満

### 河川浸水想定区域

-  5.0m以上10.0m未満
-  3.0m以上5.0m未満
-  0.5m以上3.0m未満
-  0.5m未満

### 小学校区

-  向山小学校区











1/6,000

0 100 200 m




# 液状化危険度マップ 【11向山小学校区】

## 凡例





### 防災関連施設

-  一時避難場所
-  第一避難所
-  補助避難所
-  福祉避難所
-  津波避難ビル
-  帰宅困難者向け一時滞在施設
-  高齢者福祉施設
-  公園


### 緊急輸送道路等

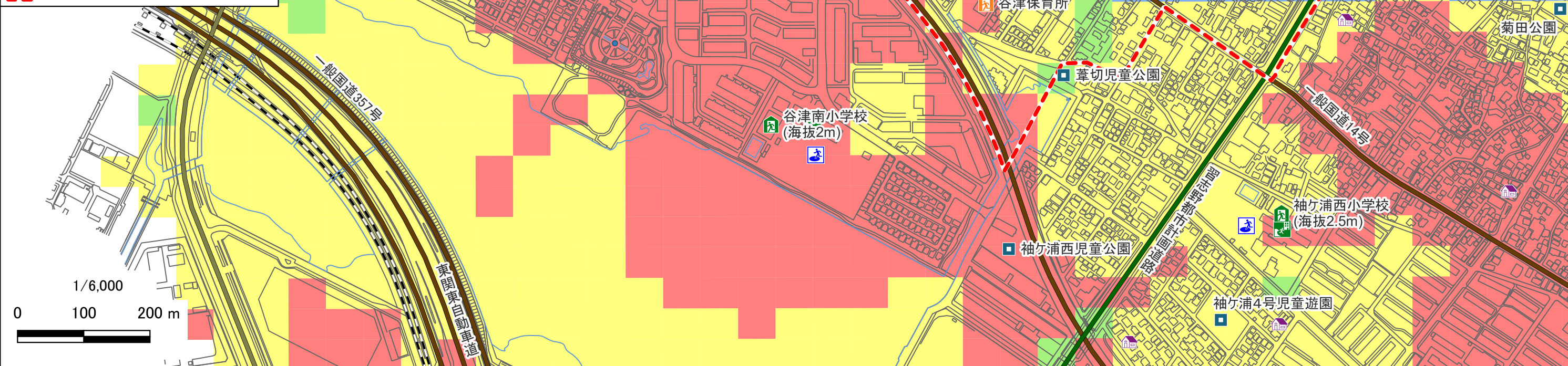
-  緊急輸送道路1次路線
-  緊急輸送道路2次路線
-  習志野市災害時重要路線

### 液状化危険度

-  高い
-  やや高い
-  低い
-  極めて低い
- 判定対象外

### 小学校区

-  向山小学校区



1/6,000

0 100 200 m



# 災害抑止要因図

## 【11向山小学校区】

### 凡例

#### 防災関連施設

- 一時避難場所
- 第一避難所
- 補助避難所
- 福祉避難所
- 津波避難ビル
- 帰宅困難者向け一時滞在施設
- 高齢者福祉施設
- 公園
- 防災倉庫
- 消防署・消防出張所
- 消防団詰所
- 警察署・交番
- 非常用給水施設
- 防災行政無線
- ヘリポート臨時離発着場
- 医療診療所
- AED

#### 消防水利

- 消火栓
- 防火水槽
- その他(プール・池)

#### 緊急輸送道路等

- 緊急輸送道路1次路線
- 緊急輸送道路2次路線
- 習志野市災害時重要路線

#### 小学校区

- 向山小学校区

1/6,000

0 100 200 m

